

和風かべ

- 砂かべ
- 繊維かべ
- しっくいかべ



水性下塗剤 + 竹炭塗料

アトム竹炭塗料

竹炭を配合し、つやムラのない 落ち着いた仕上がりで和室に最適



和風色を取り揃えています

炭調うぐいす

炭調黄じゅらく

炭調銀灰色 (いちろういろ)

スケジュールを決めましょう

塗装面積が約9㎡の6畳和室の場合

工程	使用材料	塗布量(ℓ/㎡)	塗り重ね可能時間(夏期)	理想の人数と時間
1 日目	清掃	—	—	1人 30分
	マスキング	—	—	2人 60分
	下塗り	水性下塗剤	0.08~0.14	3時間以上 2人 45分
	補修	厚付け用パテ+防滑材	重量比2:1	1日以上 状況による
2 日目	上塗り1回	竹炭塗料	0.1~0.15	1時間以上 2人 45分
	上塗り2回	竹炭塗料	0.1~0.15	2人 45分
あとしまつ(マスキングテープはがし等)				2人 30分

作業人数の目安 2人



作業人数の目安とは
その作業の難易度、作業性に相当する理想的な人数の目安です。例えば2人で行う作業を3人で行った場合、より効率的に進められるといえます。

■<アトム竹炭塗料>の標準塗り面積 (2回塗りの場合)

容量	㎡	タタミ(枚)
0.7L	2.2~3.3	約1.5
1.6L	5~7.5	約3.5
3L	9.5~14	約7

■<水性下塗剤>の標準塗り面積 (1回塗りの場合)

容量	㎡	タタミ(枚)
0.7L	2~4	約1.5
4L	14~23	約8
7L	25~40	約19

<塗料と養生用品の必要量>

塗装面積が約9㎡の6畳和室(2回塗り)の場合

- マスキングテープ 18m巻: 3巻
- マスカー 1100mm × 25m巻: 1巻
- アトム竹炭塗料 1.6L×1缶と 0.7L×1缶
- 水性下塗剤 4L×1缶



障子、襖、柱の養生に使用



下地をチェックしましょう

古くなりすぎた砂かべや繊維かべは水気を含むとドロドロになってしまったり、はがれやすくなる場合があります。そのようなかべは、塗装に適しません。予め水性下塗剤を目立たない場所に塗り、問題なく塗装出来るか確認してください。



水性下塗剤



砂かべ・繊維かべ・しっくいかべを塗る時は、事前に水性下塗剤の塗装が必要です

使用する道具

☑ 買い忘れがないかチェックを! 塗装用具は作業する人数分用意しましょう。作業効率もあがります。

塗装用具

- 化繊の比率が高い水性用か万能用がおすすめです
 - ローラーバケは中毛タイプをお選びください
 - 広い面を効率的に塗れます
 - ローラーバケを使用する場合は塗り皿やバケツが必要です
- ハケ(本) ローラーバケ(本)
 ローラーバケット かくはん棒塗り皿(個)

養生

塗料のみ出しを防ぐために使います。

- マスキングテープ ()巻き
- マスカーはテープとポリシートが一体となっており広範囲を保護できます
- [新聞紙]
- マスカー ()巻き
- ポリシート (枚)

清掃・補修

かべの補修が必要な場合

- かべ補修パテ(厚付け用)
 - パテベラ
 - 雑巾・ウエス
 - 手袋(双)
- 高い所の作業には継ぎ柄や脚立があると便利です

砂かべ・繊維かべ・しっくいかべとは？

砂かべ

砂かべは、色砂をノリ(ツノマタ、フノリ)で練った上塗りです。近年では合成樹脂を使ったものもあります。粗面でザラつきのある仕上がりで耐久性に優れていますが、年数が経つと砂が取れやすくなります。砂かべの代表的なものに京かべ、じゅらくかべがあります。



繊維かべ

繊維かべは工業製品で、綿状の繊維材と粉末のりが混ざっており、水を混ぜ合わせるだけで手軽に塗ることが出来ます。年数が経つとのりが老化してはがれやすく耐久性は劣ります。

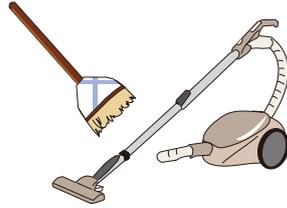


しっくいかべ

しっくいかべは水酸化カルシウムや炭酸カルシウムが主成分の上塗りです。麻すさやわらなどの繊維やノリを加えることもあります。



① 清掃



ホコリやゴミ、またボロボロ剥がれ落ちる砂粒などは事前にハタキやホウキではらい落しましょう。隅にたまったゴミは掃除機などで取り除きましょう。

② マスキング

塗りたくない部分や塗料が付着すると困る部分には必ずマスキングテープを貼ってください。マスキングテープは、幅の広いもの(24~30mm程度)がおすすめです。床面や家具には新聞紙やポリシート等で保護すると塗装時の汚れが防げます。



マスキングテープはテープとポリシートが一体になっており、とても便利です。

⚠️ テープの粘着力が強いのでマスキングテープを貼った上に貼りましょう。

⚠️ きれいに仕上げるために「きわ」はしっかり抑えてください。

③ 下塗り ●砂かべや繊維かべ、しっくいかべに塗る場合は、水性下塗剤の塗装が必要です

下地を固める

付着性を高める

吸い込みを止める

耐久性を高める



水性下塗剤

砂かべや繊維かべは年数が経つにつれてもろくなってきますので、そのまま上に塗料を塗っても下地ごとにはがれてしまいます。はがれないようにするには「水性下塗剤」を塗って下地を固める(押さえる)必要があります。また、水性下塗剤には吸い込みを止める、上塗り塗料の密着性を高める効果がありますので砂かべや繊維かべ、しっくいかべには必ず塗ってください。

💡 ここがポイント...



砂かべ >>>



ローラーバケでは塗りにくい隅から先にハケで塗りましょう。隅が塗り終わったら、ローラーバケで全体を塗ります。水性下塗剤は粘度が低く(水のような感じ)、たれやすいので塗る前にローラーバケや塗り皿でよくしごいてください。中毛タイプのローラーバケをおすすめします。

・水性下塗剤は液体の状態では乳白色ですが、乾くと透明になります。

繊維かべ >>>



・砂かべや繊維かべ、しっくいかべは吸い込みが激しいので水性下塗剤を塗装したらしっかりと乾燥させてください。

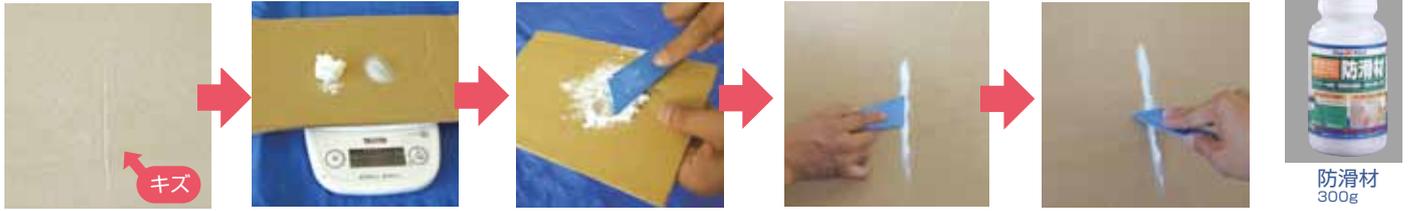
パテ補修可能時間 3時間以上

パテ補修後の上塗り可能時間 1日以上

4 補修 (欠損部分がある場合)



キズや欠損部分は厚付け用のパテ(5mm厚)で補修しますが、平らになってしまいます。周りとの違和感をなくすために、厚付け用のパテに防滑材を混ぜて使用します。〈混ぜる割合: 厚付け用パテ 100g / 防滑材 50g (50%位)〉ポイントは、あまりはみ出さない様にパテを盛り、パテベラで垂直に素早く平滑に均します。1日以上乾燥させてから塗装してください。



⚠️ パテを放っておくと、すぐ乾燥してしまうので混ぜたらすぐに補修してください。

5 上塗り(竹炭塗料を塗る)

塗料をかき混ぜる

塗料は様々な原料から成る混合物のため、一部の色の粉が沈んでいることがありますので

⚠️ 中身をよくかき混ぜてください。

フタを開ける前に容器を逆さにしてよく振ります。フタに手をそえてマイナスドライバー等で開け、容器の底にドロツとした固まりがなくなるまでヘラなどで充分にかき混ぜてください。かき混ぜる作業が終わりましたら、使用する分を塗り皿や別の容器に移してご使用ください。



缶の底に沈殿物がなくなるまで混ぜる



フタを開ける際に塗料が飛び散ることがあります。ボロ布をかぶせてからフタを開けるなどご注意ください。

缶の縁の溝に布を挟み込むと缶を汚さずに移し換えることができます。

塗料を塗る

<1回目の塗装>



ローラーバケでは塗りにくい隅からスジカイバケで塗りましょう

ハケはまず使う前に抜けやすい毛を取り除いてください。塗料はハケの根本まで付けるのではなく、毛先から2/3程度まで付け、塗り皿のフチで余分な塗料を落としてください。ローラーバケでは塗りにくい隅から先にスジカイバケで塗りましょう。厚塗りを避け、塗料をのぼすように塗ってください。



厚塗りを防ぐために塗り皿のフチで余分な塗料を落としてください。



塗り皿にポリ袋をかぶせ、両面テープでとめて使用すると後片付けが楽になります。

▲広い面はローラーバケで効率的に塗りましょう

最初に軽くローラーバケをゆっくり転がして塗料を配り、その後ムラにならないように上下(場合により左右に)ならして仕上げる方法が一般的です。塗料を付けすぎたり強く押しつけるとローラーバケの端から余分な塗料が出てライン状に溜まりが出来やすいので、付け過ぎに注意してゆっくり転がします。勢いよく転がすと塗料が飛び散ることがありますので、顔にかかったり、目に入らないよう注意してください。

2回塗りのすすめ

アトム竹炭塗料は通常1回塗りですが、初めて塗装される方、またきれいに仕上げたい方は2回塗りをおすすめします。2回塗りとは1回目の塗装が乾燥してから2回目の塗装を行うことです。

1回目と2回目の塗り重ね可能時間: 1時間(冬期は4時間)以上

<2回目の塗装>



●塗り方は1回目の塗装と同様です

ローラーバケでは塗りにくい隅をスジカイバケで塗り、広い面はローラーバケで塗ってください。仕上げの塗装なので厚塗りによるタレなどに注意してください。

6 あとしまつ

● マスキングテープは、乾く前にはがしてください

乾燥した後ではがすと、マスキングテープと一緒に塗膜がめくれてしまう恐れがあります。塗膜がめくれてしまいそうな時は、**境目に軽くカッターナイフで切れ目を入れてからはがしてください。**



マスキングテープをはがす際は、塗装した面を汚さないように**外側に向けて**はがしてください。

● 用具の手入れは水で行ってください

ハケは、含んでいる塗料を新聞紙等で拭き取った後、乾く前に水洗いをしてください。洗い終わったら十分に水気を切り、陰干ししてください。塗り皿も同様に新聞紙等で拭き取り、水洗いをしてください。**用具の手入れは乾燥する前に行ってください。**乾燥するとハケの毛が固まって使用できなくなってしまいますのですぐに洗わない場合は水に浸けておきましょう。



 **2回塗りの場合は2回目の塗装の後にマスキングテープをはがします。(最終塗装が終了したらマスキングテープをはがします)**

7 乾燥

塗装後は換気をよくして十分に乾燥させてください。塗装した後、しばらく臭気が残ってしまう場合があります。

手で触れる乾燥時間は、夏場で30分～60分、冬場は2～3時間です。



*この乾燥時間は、指で軽くこすって跡がつかない状態です。完全に乾くまでには約1日かかります。

■ 完成(イメージ)

和室 / 砂かべ



廊下 / 繊維かべ



● つや消しの仕上がりで、落ち着いた雰囲気を演出します。また明るくなります。

アトムサポート株式会社

本社 〒174-0041 東京都板橋区舟渡3-9-6
URL <http://www.atom-paint.co.jp>

お客様相談室

TEL 03-3969-7866

ホームページ
はこちら